

県産材を利用するには

県産材利用に役立つ様々な資料や情報などを掲載。

県産材利用の留意点

県産材の利用を考える際は下記に留意し計画してください。

1

木造・木質化の
メリットを考える

- ◆利用者の心身に働きかける様々な効果
- ◆地球環境にやさしく、地域経済の活性化に寄与
- ◆工事費、工期、税制上のメリット(短い減価償却期間)

2

木材の調達を考える

- ◆地域で供給可能な木材の情報(種類、寸法、数量、納期)
- ◆調達ルート
製材所・プレカット工場・材木店 など

3

構法(架構タイプ)や
空間デザインを考える

- ◆構造設計、意匠設計の検討
- ◆調達可能な木材でどのような設計ができるか

木材利用に向けた建築計画

法的なチェック

- 規模や敷地**
- ▶用途
 - ▶規模(階数、面積)
- 防火規制**
- ▶無指定
 - ▶準防火地域
 - ▶防火地域

連携体制づくり

- 木材調達**
- ▶森林組合
 - ▶製材所
 - ▶県木協 等
- 建築計画**
- ▶建築士事務所協会
 - ▶建築士会 等

構法等の検討

- 木材の確保**
- ▶県産材の確保が可能か
 - ▶一般流通材の品質・規格
- 構法の選定**
- ▶木造
 - ▶混構造
 - ▶認定工法
 - ▶内装木質化

コストの検討

- コストの考え方**
- ▶本体、基礎工事、維持管理のほか、環境性能など総合的な検討
- コストの検討**
- ▶木造として、コストを予算範囲に納めるための検討

建築物の木造・木質化の建築計画

主な木質材料(県産材利用の候補となるもの)

製材

- 丸太(原木)を切削加工したもの。
- 強度等の特性は、樹種による違いのほか、産地個体の差、どの部分から製材したか(木取り)による違いがある。

集成材

- 鋸挽きされた板状の製材(ラミナ)を繊維方向が平行になるように積層接着したもの。
- 積層や縦継ぎにより、大断面、長尺のサイズを製造可能。
- ラミナの品質区分により、要求性能に併せた品質の集成材を製造可能。

LVL(単板積層材)

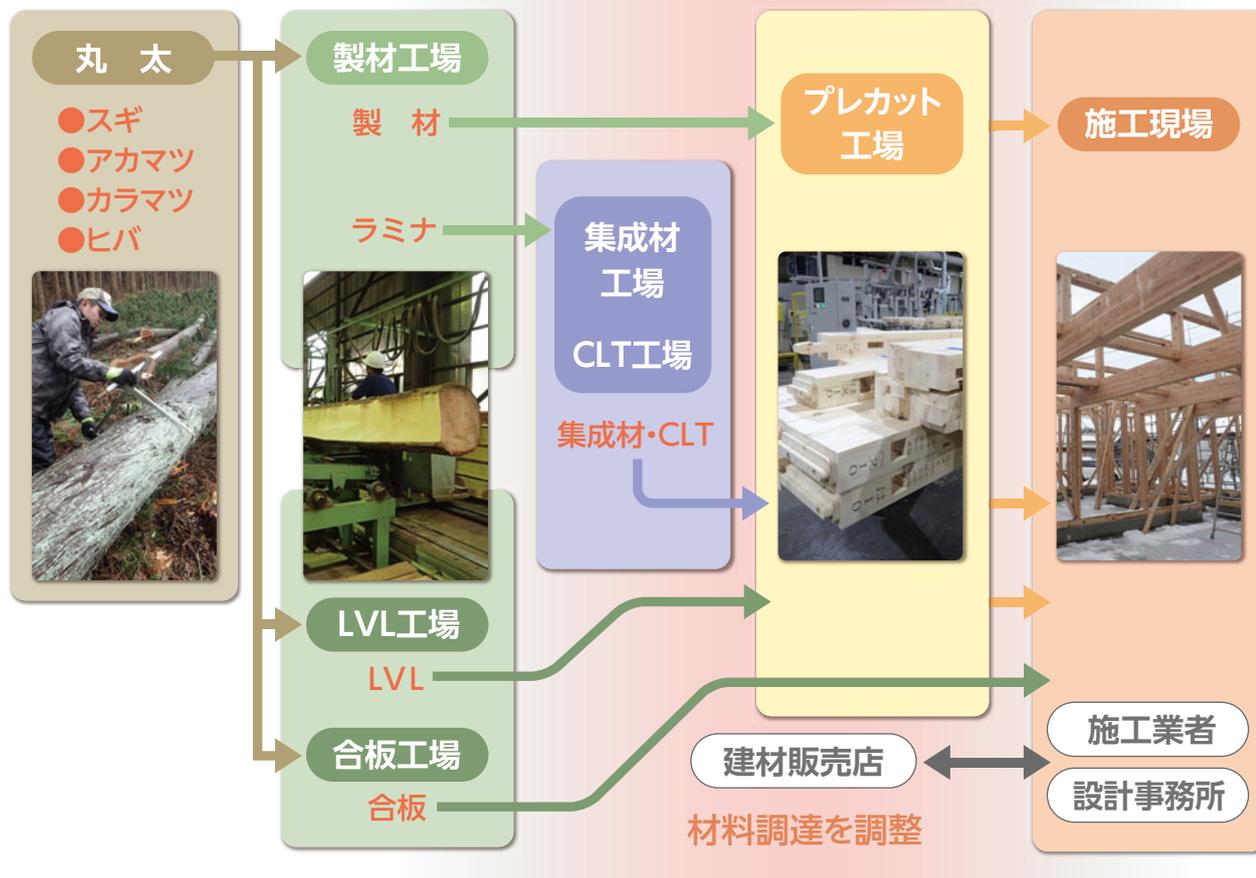
- 丸太をカツラ剥きにした単板を複数枚、繊維方向が平行になるように積層接着したもの。
- 単板の品質を評価・選別することで、要求性能に見合った品質のLVLを製造可能。

CLT(直交集成板)

- ラミナを横に並べた層を軸方向に直交させながら積層接着したもの。
- 大判のCLTで壁等を構成するCLTパネル工法が可能。

木材供給ルート

県産材は、主に製材工場、LVL工場、合板工場で加工され、建材販売店やプレカット工場を経て施工現場へ納品されることが多くなっています。なお、県産材を取り扱っている製材工場や建材販売店等からの調達に期間を要することもあるので、計画段階から調達先、時期、調達方法等について検討する必要があります。



県産材の利用に向けて

■県産材の利用においては、取扱業者を確認の上、設計事務所・施工業者と情報共有しましょう。

県産材取扱業者についてはP29ページで紹介の

「青森県製材品展示商談サイト」、「県産材ウェブカタログあおもりの木～青森県産材～」で御確認ください。

■集成材については、加工工場のほとんどが青森県外にあるため、青森県産のラミナ（ひき板）を使った集成材の作成を依頼する場合は、あらかじめラミナを製造している製材工場の情報を集成材工場に事前に伝えると調達しやすくなります。

■一定の強度を必要とするものは品質・性能が担保されたJAS材の利用を検討しましょう。

JAS材取扱い工場一覧はP30ページで御確認ください。

■内装、建具、家具、什器へ県産材を取り入れることも可能です。

身近なものにも県産材を取り入れてみましょう。

木材と上手く付き合うために

木造は、必要な維持管理を行うことで大きな修繕に至ることなく長持ちさせることが可能です。蟻害、腐朽、乾燥・収縮（割れ）、たわみ、摩耗、退色などが木造に特有の劣化現象です。設計時に、これらの項目に配慮した維持管理について検討しておくことが重要です。また、発注者は、設計者の検討した維持管理の内容を踏まえ、あらかじめ維持管理の方法や予算化の時期などを検討しておきましょう。

木造における維持管理の考え方

① 外構・外装における劣化防止のポイント

軒の出を深くし外壁への雨掛かりを少なくすることなどが有効です。塗装仕上げを選択する場合は、耐久性にも配慮した塗料を選択するとともに、あらかじめ再塗装の目安を維持管理計画に設け、定期的な点検・塗装を行います。

再塗装の目安としては、「顔料が落ち、色があせてきて、木材の基材が見え始めた時点」などとするのが考えられます。

② 維持管理費を抑える設計セオリー

蟻害・腐朽を防止するためには水をコントロールすることが有効であり、雨掛かりのないように設計するなど設計計画での工夫が求められます。

また、外壁の納まりや断熱材の配置、配管の位置などの結露対策が不十分であれば、結露による木材の劣化が維持管理費用を増大させることなども考えられるため、断熱・気密も考慮した設計・施工が求められます。

③ 作業性への配慮

再塗装や保守・点検などの維持管理が効率的かつ安全に実施できるよう、各部点検口、作業スペース、搬出入経路などを設けます。設備システムなどの機器配置は、保守・点検・清掃が効率的かつ容易に行えるよう配慮します。

また、仕口に金物を使用している場合には1年目点検・2年目点検が必要になります。金物の緩みなどは安全性に影響するため、増し締めをするなどの検討を行います。その際に足場を必要としないような工夫があると維持管理費用を削減できます。

④ 更新性への配慮

仕上げ材料や設備機器類の更新が経済的かつ容易に行えるように、配管・配線・ダクトなどは交換しやすい設計及び資材の選択を心掛けます。また、更新周期の異なる仕上げ材料や設備機器類の交換にあたっては、健全部分の取り壊しが生じないような設計にすることも重要です。